

# 藤井しんすけ 議会ニュース 議会録

令和2年 国際文化観光・スポーツ常任委員会

令和2年3月3日

藤井委員

初めに、湘南地域の周遊促進について質問します。県では、横浜、鎌倉、箱根に次ぐ国際観光地の形成のために、観光の核づくりを進めており、その中で、大磯地域の観光振興にも取り組んでいただいております。また、この湘南地域の4市3町では、以前も質問させていただきましたが、シェアサイクルの実証実験事業を昨年8月から開始しています。

このように、県が湘南地域の魅力づくり、魅力発信に先導的に取り組んでいただいていることを、改めて評価したいと思います。

一方で、県が昨年策定した、神奈川県観光振興計画では、観光消費額を目標値として掲げており、観光消費額を高めるために、観光客の広域周遊を促すとされております。

湘南地域においても、広域周遊の視点を持って考えたとき、観光の核づくりやシェアサイクルの取組が、広域周遊を促すように、効果的に実施される必要があると思っております。そこで、湘南地域で実施されている県の取組において、どのように広域周遊を促しているのか、その点を伺ってきたいと思います。

初めに、観光の核づくり地域に選ばれている大磯地域ですが、これまで、どのような取組が行われてきたのか伺います。

観光企画課長

大磯地域では、町なかの回遊性を向上させ、長く滞在していただくことを目的に、平成26年度に創設した、新たな観光の核づくり促進交付金を活用し、多言語の観光案内板や観光標柱、それから街歩きのオブジェの整備に取り組んできました。また、大磯港周辺を回遊する、多くの観光客に気軽に利用してもらえるように、サイクルラックや通年利用可能なシャワールーム、トイレなどを備えたポートハウスをさがきを整備しております。

藤井委員

大磯地域において発掘、磨き上げを進めた結果、こういった成果があったのか伺います。

観光企画課長

大磯地域における、観光資源の発掘・磨き上げを進めてきた成果は、まず平成30年度の入込観光客数が110万人と、前年の92万人から大きく増加しています。

また、この地域では、平成29年11月に明治記念大磯邸園の設置が閣議決定され、旧伊藤博文邸の滄浪閣を中心とする建物群及び緑地の整備が行われており、歴史的資産の保存、活用も図られてきております。さらに、大磯港では、にぎわい交流施設の整備が進んでおり、今年の秋には完成が予定されるなど、新たな資源も生まれてきています。

藤井委員

来年度予算案では、観光の核づくりについて、新たに補助金を創設するという報告がありました。大磯地域で、今後、どのような取組を進めていこうとされているのか伺います。

観光企画課長

来年度、新たに創設する補助制度で、より民間資本と連携した取組を進め、県は、その事業費の2分の1以内の額を支援していきたく考えています。具体的には、大磯地域では来年度、にぎわい交流施設が港に整備されることに加え、現在国でも、明治記念大磯邸園の整備を進めていることから、魅力的なコンテンツの創出により、新たな人の流れが生まれてくることを期待されます。

そこで来年度は、こうしたコンテンツの活用に向けて、民間をはじめ、大学やそのほか

の民間事業者のプレーヤー、幅広い方の呼び込みとなる観光ウェブサイトのリニューアルの支援を考えています。こうしたことを含め、地域全体の周遊観光を促していきたいと考えております。

藤井委員

次に、湘南地域における、シェアサイクル事業について伺います。昨年8月30日にスタートしたシェアサイクル事業ですが、36か所、277台分で、サイクルポートも設置していただいております。現在の進捗状況は、どのようになっているか伺います。

観光企画課長

事業開始の令和元年8月後も、ポートの確保について、地元や民間と調整した結果、令和2年1月末現在、計54か所、511台分のサイクルポートを設置しています。

藤井委員

かなり進んできましたが、昨年9月に質問した際に、駅前のサイクルポートの確保が困難という答弁がありました。一方で、商業施設やコンビニエンスストアへの設置を検討すると答弁がありましたが、公有地の確保も含めて、現在どういった状況になっているのか伺います。

観光企画課長

観光客も含めた利用者の利便性の観点から、まずは起点となる駅前、ポートとポートの中間点の、サイクルポートの確保が重要と考えており、商業施設とコンビニエンスストア等への設置について、調整を進めてきました。

具体的に駅前は、昨年11月に辻堂駅前の商業施設テラスモール湘南、それから12月と令和2年1月に平塚駅前の駐輪場2か所にサイクルポートを設置したところです。さらにコンビニについても、ポート設置を拡大しており、1月末日現在、湘南地域のファミリーマートは12店舗、セブン-イレブンにも1店舗、サイクルポートを設置しました。

また、公有地について調整を進めてきましたが、昨年10月に平塚市にある花菜ガーデンにサイクルポートを設置し、ほかの公有地の設置についても、調整を進めています。

藤井委員

少しずつ、着実に進めていただいていることが分かりました。このシェアサイクル事業は、冒頭にお話しさせていただいたとおり、広域で実施する必要があります。実施するに当たって課題を伺います。

観光企画課長

シェアサイクルの円滑な事業の実施に当たり、駅前を含めたポートの確保と、事業採算性の確保も両立して進める必要があります。

サイクルポートの数自体は増加しておりますが、その設置場所を見ると、現在、藤沢市など、高い頻度で利用が見込める地域に偏っている傾向があります。湘南地域全体の広域周遊を実現するためには、設置箇所の隔たりを少なくするという課題があります。

藤井委員

大磯地域において観光の核づくりの成果を活用し、シェアサイクルの導入が進んでいけば、広域周遊に資する効果は大きいと思います。先ほどの答弁ですが、全般的に偏りのない形で進めていただきたいと思います。今後、大磯地域をはじめとした、湘南地域における普及促進に、どのように取り組んでいくのか伺います。

観光企画課長

大磯地域においても、これまで設置されておりませんが、駅前や町内の観光施設等における、サイクルポート設置の検討は進みつつあります。大磯地域の観光コンテンツについては、多言語の観光案内板や観光標柱など、これまで整備されてきたコンテンツは、

シェアサイクル利用者にとっても有効なツールであると考えております。こうしたコンテンツとシェアサイクルを組み合わせた広域周遊プロモーションなど、大磯地域が進める取組と併せて実施していくことで、湘南地域全体の広域周遊を促していきたいと考えております。

藤井委員

広域周遊ということですが、観光スポットがあれば、自転車で行ってみたいと思います。例えば、大磯地域で言うと、テレビドラマで吉田茂を扱っていました。ドラマでは、大磯町の紹介や、改めて吉田邸の紹介もありました。これが様々なコンテンツを利用するということです。文化などの魅力について、連携を取り、しっかりと伝えることが大事だと思います。その中で、新型コロナウイルス感染症もあり、観光に逆風が吹いています。外国人向けのインバウンドにおいても、様々な施策がありますが、非常に厳しい状況です。早く終息することを願うばかりですが、終息したとしても、今後、同様の事態が起り得る可能性もあるので、しっかり対策を取らなければいけないと思います。観光では、シェアサイクルも含め、道路がとても大事です。神奈川県観光振興計画の中に、さがみ縦貫道路があったので、広域周遊ということから考えると、道路が大事になると思います。自転車が安心して走れる道路を整備する必要があるので、県の中で連携を取って進めていただきたいと思います。

近現代史は、学校の授業であまり学びません。そういったことを考えると、吉田邸周辺、また大磯町の明治記念大磯邸園は、非常に勉強になると思います。ぜひ多くの方に学んでいきたいと思うので、多くの方に来ていただけるような取組を続けていただきたいと思います。

次に、平成30年第1回定例会の本会議で質問した、SDGsに関連する取組ですが、神奈川県が中国遼寧省、韓国の京畿道と提携交流している、三県省道の中でSDGsについて、共通の取組をしてはどうかというお話しをしました。その中でも、この委員会には関係ないのですが、環境分野で、しっかり取り組んでいくべきと提案させていただきました。その際に知事から、今後、三県省道友好交流ネットワークにおいて、SDGsの理念を共有するとともに、本県の取組を紹介し、環境問題についても意見交換を行い、解決に向けて、具体的な取組を検討すると答弁をいただいたので、そのことに関して、質問していきたいと思います。

定例会での質問以降、この三県省道友好交流ネットワークを使って、どのような取組があったのか伺います。

国際課長

本県、中国遼寧省、韓国京畿道と友好提携関係で、様々な交流を行ってきました。平成7年に、遼寧省庁から3地域のネットワーク形成の提案があり、平成8年に初めて、友好県省道交流会議が遼寧省で開催され、その後、基本的に隔年、各地域持ち回りで開催されています。この友好県省道交流会議は、3地域の代表が集い、毎回テーマを定めて、共通課題の解決や交流の促進について議論を重ねています。

お話のありましたSDGsについてですが、第12回となる会議は、令和元年5月に開催され、持続可能な開発目標、SDGsの推進をメインテーマに、湘南国際村センターで開催しました。

藤井委員

内容について伺います。

国際課長

まず、基調講演として、公益財団法人地球環境戦略研究機関、IGESですが、自治体

のSDGsの動向と題した講演をいただき、3地域からそれぞれの取組を紹介しました。

藤井委員

3地域が、どのような発表をされたのか伺います。

国際課長

まず本県からは、神奈川県でのSDGsの取組と題し、本県が進めているSDGs推進に向けた、基本的な方向性や具体的な取組について紹介しました。中国遼寧省からは、中国における、持続可能な開発目標分野の理念と実践ということで、省の取組事例として、例えば、貧困の撲滅、地方振興戦略の実施、基本公共サービスの均等化といった観点から、中国遼寧省における取組を紹介していただきました。韓国の京畿道からは、北東アジアの平和経済共同体、北東アジアの共同発展のための3地域の協力法案ということで、3地域共同して、東アジアの発展に向けた地域間協力関係の構築に関する御提案をいただきました。

藤井委員

三県省道が発表いただき、それぞれ取り組んでいることを答弁していただきました。この会議を受けて、3地域のネットワークに対して、今後どういった取組を展開していくのか伺います。

国際課長

今回、こういった会議を持ち、相互協力の強化と、共同発展のために、連携を進めることで共通認識を持ちました。ただ、各国、各地域において置かれている状況が、かなり異なっている部分があります。また、その関心分野についても、方向が違う部分があります。SDGs自体が持続可能な世界を実現するために、17のゴールと169のターゲットから構成されており、分野が非常に広範囲なものとなっています。ただ、この国際的な取組のSDGsの推進に向け、まず個別分野で具体的な連携について、今後、何ができるのか、両地域の取組を見ながら検討していきたいと考えております。

藤井委員

国である程度、理念や方向性は決まっても、地方自治体のように、具体的なところに入っていないと、SDGs自体が絵空事になってしまうことを危惧したので、質問させていただきました。具体的に、三県省道が意見を出し合ったことが、非常に大きな意義があると思っています。

その中で、具体的にどのような解を出していくのか、非常に難しい話ですが、先ほど中国で、地方振興ということもありました。特に、国際課の皆様が担っていただいているので、そういった目標に対して、何らかの形でつながっていくことは非常に大事だと思います。

答弁の中にもありましたが、東アジアの中で、日本、中国、韓国というバランスから考えていくと、本当に大事な3国です。その中で、地方自治体として取り組むことは、すばらしいことだと思います。自治体の中で、共通しているところを見だし、SDGsのゴールに向かっていくわけですが、できれば頻繁に連絡を取り合い、他県の模範となる自治体の取組として、先駆的な取組は評価したいと思います。以後も頑張ってくださいと要望し、質問を終わります。